

教育費は負担が重い

食料品など身の回りで値上げが相次いでおり、家計が苦しくなってきた。

学習塾代の捻出

総務省が公表する家計調査より勤労世帯1カ月の支出をみると、2022年の食費は8万円と11年と比べ1万円（11年の1.2倍）、電気代はウクライナ問題や円安によるエネルギー価格の上昇の影響で4千円（同1.4倍）増えている（図表1）。一方、シャツなどの被服費やこづかいは減少しているが、子どもの学習塾代は減っていない。収入が伸び悩み、食費や光熱費が増えるなか、節約できるものは削りながら、教育費を捻出していると考えられる。

兵庫の家庭は教育熱心

勤労世帯の1カ月の支出額を費目別にみると教育費が最も多い県は高知県で1万9千円、2位は奈良県の1万7千円、次に兵庫県の1万3千円となっている（図表2）。

学習塾代に限ると、兵庫県は千葉県に次いで2位の3309円と全国平均の倍となっており、兵庫の家庭は教育熱心である。実際、県内の小学6年生で学習塾に通っている児童（通塾率）は学校の補習だけ学ぶ子どもも含めて55.4%と半数を超えている（図表3）。学校の授業より進んだ内容を学習している児童に絞ると41.9%であり中学受験を目指し通塾している子どもは多いと思われる。

私立中学に通う生徒が多い

県内にある私立中学校の数は43校と全国で4番目に多く、充実した施設のもとで行われる教育は独自性が高く人気がある。少子化により県内中学の生徒総数が減る中、私立に通う生徒数は減っていない。22年の生徒総数は14万2千人と15年と比べ1万4千人減少している。この間、私立の生徒数は約1万2千人と変わらず、その割合は8.1%から0.6ポイント上昇の8.7%と全国9位を維持している。

大学進学率が高い

このように中学から受験をさせるなど学びを大切にしている家庭が多く、県内高校生の大学進学率は66%で全国4位と高い。県内に大学が35校あり、近隣の大阪府や京都府の大学数が多いことも大学進学率を高めている。最近では、豊岡市に芸術や文化を学べる公立大学が新設された。他にも専門的な分野を学ぶことができる大学が県内にある。

教育費の準備

しかし、大学まで進学させるとお金の面が心配になる。例えば、幼稚園から大学まで公立に通うと820万円、全て私立の場合は2200万円にもなる。実際には幼小中高は公立で大学は私立など色々なパターンがあるとはいえ出費がかさむ親としては大変だか、学費は子どもの将来の選択肢を広げるために必要である。いざというときに慌てることのないよう計画的に備えておかなければならない。

（上席研究員 河村 真二）

図表2：全国勤労世帯1カ月の教育費支出

都道府県	教育費 (円)		うち学習塾代 (円)		うち学校授業料 (円)	
	金額	順位	金額	順位	金額	順位
高知県	19,451	1	2,269	10	17,135	1
奈良県	17,159	2	2,969	3	14,030	2
兵庫県	13,439	3	3,309	2	10,079	5
埼玉県	13,194	4	1,826	18	11,291	3
千葉県	12,173	5	3,479	1	8,616	11
全国平均	8,710		1,682		6,918	

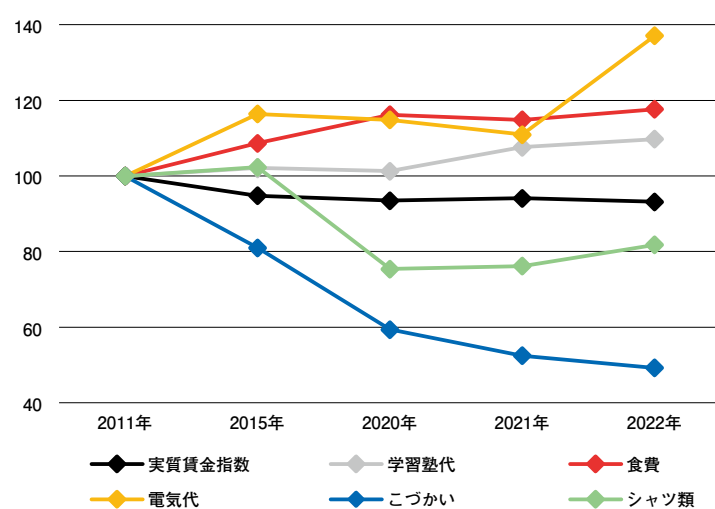
資料：総務省「全国家計構造調査」より作成
教育費計は学習塾代と授業料以外に参考教材費などあり合計額は一致しない。

図表3：通塾率等の状況

都道府県	通塾率(小6)		学校の授業より進んだ内容を学習(小6)		大学進学率		大学数(国公立・私立)	
	(%)	順位	(%)	順位	(%)	順位	(校)	順位
東京都	60.1	1	48.0	1	71.5	1	144	1
神奈川県	57.8	2	44.9	2	66.0	4	31	8
奈良県	57.2	3	43.3	3	63.4	7	11	21
兵庫県	55.4	4	41.9	4	66.0	4	35	5
大阪府	52.9	5	38.5	5	66.6	3	58	2
京都府	51.5	8	37.6	7	71.3	2	34	7
全国平均	47.4		34.2		59.5		17	

資料：国立教育政策研究所「全国学力・学習状況調査」
文部科学省「学校基本調査」より作成

図表1：勤労世帯1カ月の支出指標 (2011年=100)



資料：総務省「家計調査」より作成